

令和5年8月9日 第1回 がん部会

資料6

がん登録の活用による がん検診精度管理向上事業

東京都保健医療局 保健政策部 健康推進課

本事業を開始するに至った背景

がん検診の現状とがん登録情報の活用

- 都内自治体が実施するがん検診は精検未把握率が高く(右表・赤字) 要精検者の精検受診動向が追跡できないケースが多い。
- 一次検診で陰性と判定された後や 精検未受診・未把握者でがんが発見された場合など、自治体のがん検診データだけでは受診者の正確ながん罹患状況を把握できない。

がん検診精密検査受診率 (令和2年度・東京都)

| | 胃がん | | 肺がん | 大腸がん | 子宮頸がん | 乳がん |
|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | X線 | 内視鏡 | | | | |
| 精検受診率 | 71.8% | 83.7% | 69.3% | 57.5% | 76.6% | 87.1% |
| 精検未受診率 | 7.1% | 0.6% | 4.9% | 17.1% | 4.0% | 2.1% |
| 精検未把握率 | 21.1% | 15.7% | 25.8% | 25.4% | 19.4% | 10.8% |

令和4年度 東京都精度管理評価事業より

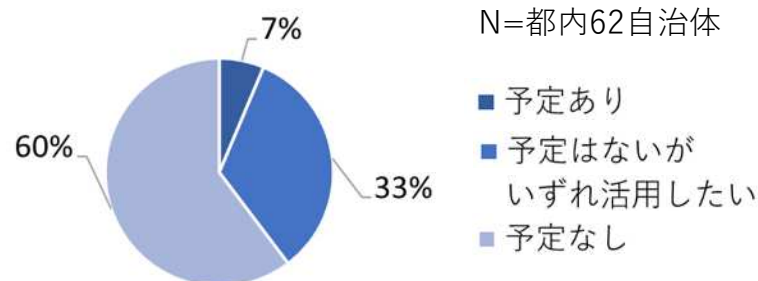
- **自治体のがん検診データとがん登録データを照合**することで正確ながんの罹患状況の把握が可能となる(下表)。
 - **感度、特異度などのプロセス指標**を算出して検診実施体制上の課題を抽出することで改善に繋げることができる。
- このほか、偽陰性例や偽陽性例(下表・赤字)についての症例検討を行うことで**読影医の読影能力向上**が期待される。

| がん検診データ | 受診者名 | 検診結果 | 精検結果 | + | がん登録データ | 罹患者名 | 病名 | 転帰 | → | 照合データ | 受診者名 | 検診結果 | 精検結果 | がんの有無 | 転帰 | 評価 | | | | | |
|---------|------|------|------|---|---------|------|----|-----|---|-------|------|------|------|-------|-----|-----|--|--|--|-----|-----|
| | A | 陰性 | | | | | | | | | | | A | 陰性 | | | | | | 真陰性 | |
| | B | 陽性 | 未受診 | | | | | | | | | | B | 陽性 | 未受診 | | | | | | 偽陽性 |
| | C | 陽性 | 未把握 | | | | C | 胃がん | | | 死亡 | C | 陽性 | 未把握 | 胃がん | 死亡 | | | | | 真陽性 |
| | D | 陽性 | 異常あり | | | | D | 胃がん | | | | D | 陽性 | 異常あり | 胃がん | 治療中 | | | | | 真陽性 |
| | E | 陰性 | | | | | E | 肺がん | | | 死亡 | E | 陰性 | | 肺がん | 死亡 | | | | | 偽陰性 |

東京都の課題と取組

- これまでに都が関与したがん登録情報活用の事例が無い。
 - **モデル自治体と都が連携したモデル事業を展開した。**
 - 令和4年度の自治体アンケートにおいて、がん登録の活用予定がある自治体はわずか7% (右図)。
- 活用予定が無い自治体で最も多かった理由は「手続きや分析方法が不明」であった。
- **モデル事業を通じて得られたノウハウを基に自治体担当者向けの手順書を作成した。**

がん登録情報活用予定の都内自治体割合



令和4年度自治体アンケート調査より

事業スケジュールと作成した手順書について

事業スケジュール

| 担当 | 令和3（2021）年度～令和4（2022）年度 | 令和5（2023）年度以降 | |
|---|---|---------------------------------------|--|
| モデル自治体 | 実施に向けた調整（個人情報保護審査会等） 検診情報とがん登録情報の照合 外部専門家等による分析・評価 など | 分析結果のフィードバック・活用方法の検討 がん登録情報活用事業の継続 | |
| 都 | 検診台帳整備状況等の確認 利用申請書作成時の助言・支援 照合データの集計・分析 など | 必要に応じて集計・分析の助言・支援 | |
| | 自治体担当者向け連絡会等での周知（がん登録情報の有用性、がん登録情報提供制度 など） | | |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">手順書案の作成</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">有識者による監修</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; color: red; font-weight: bold;">がん部会で作成報告</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自治体へ配布・解説</div> </div> | | | |

手順書の概要

モデル事業を通じて得られたノウハウを基にがん登録情報を精度管理に活用する方法等を示した手順書を作成
自治体担当者向け連絡会にて各自治体へ手順書を配布（非公表）・解説予定

【手順書の目次（一部抜粋）】

- 第1章 導入：背景と目的、がん検診の偽陰性と中間期がん
- 第2章 全国がん登録の詳細：ICD-O-3と提供データの定義、がん登録情報の限界
- 第3章 がん登録利用の前に：言葉の定義、事業の全体像と必要条件
- 第4章 がん登録情報提供に関わる手続き：計画と承認、利用申出書類の作成
- 第5章 集計分析：データ突合、集計、集計結果の考察、成果の公表、情報の廃棄

